

会報・ホームページ委員が調査しました！

## 日本の花火について

会報・ホームページ委員 中野 善隆



### 花火の歴史

日本において花火はいつ伝わってきたのでしょうか。日本で初めて花火が使用されたのが何年なのか定かではないようですが、古くは室町時代に大陸から持ち込まれたと書かれた資料もあるようです。一般的には、16世紀ごろ鉄砲とともに伝わったとされています。戦国時代には鉄砲や火薬が使用されていたので、少なくとも同時期に花火が伝わったと考えるのが自然かもしれません。

当時の花火は、おもちゃ花火程度であったと考えられ、江戸時代の百科事典には鼠花火などが紹介されているそうです。花火は当時から人気があったとされていますが、花火が原因の火事が多発したため、花火禁止令が出された時期もありました。現存する日本で最も古い花火業者は、東京の宗家花火鍵屋です。1659年に火薬を練って小さな玉をつくり、「火の花」「花の火」「花火」と称して売り出したのが始まりだそうです。この鍵屋と並んで、江戸時代の花火業者を代表したのが玉屋です。「玉屋」「鍵屋」は、両国の川開き（現在の名称は隅田川花火大会）を受け持つ2大花火師の屋号です。「たーまやー」「かーぎやー」の掛け声は、それぞれの花火を誉め称えるため名前を呼んでいた習わしの名残です。当時は、鍵屋より玉屋の方が人気があったと考えられていますが、玉屋は火事を起こし、町並みを焼いてしまい、江戸外へ追い払われ、一代で終わってしまいました。

花火大会も江戸時代が始まりとされています。記録に残る最古のものが、先ほどの両国の花火です。「隅田川花火大会」の名称が使われたのは、昭和53年からで、それ以前は、「両国の川開き」という名称で呼ばれていました。1733年（享保18年）に行われたのが始まりと言われています。その前年、1732年（享保17年）に、全国的に大飢饉で多くの餓死者が出て、さらに疫病が流行し多大な被害がありました。その際、8代将軍徳川吉宗が犠牲になった人々の慰霊と悪病退散を祈り、隅田川で水神祭を行いました。この時に、両国橋付近で花火を上げたことが「両国の川開き」の由来とされています。

「コロナに負けたい」と願い、各地で上げられた2020年のサプライズ花火と通じるところがありますね。

夏といえば花火大会という方も多いのではないのでしょうか。日本の夏の風物詩、花火大会ですが、2020年の夏は例年とは様子が違いました。新型コロナウイルスの影響により、感染拡大防止の観点から人が集まる花火大会は、ほとんど中止になりました。ただ、まったく打ち上げられなかったわけではなく、地域を元気づけるため・医療従事者らを応援するためなどの理由で、人が密集しないようサプライズ花火が各地で打ち上げられたのは記憶に新しいところだと思えます。そこで、今回の特集は、日本の花火について調べてみました。



特別企画 バックナンバーはコチラ



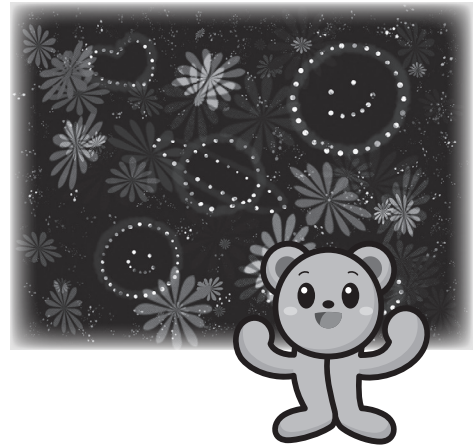


## 最近の花火

江戸時代は、暗いオレンジ色（火薬の色）1色だけだったそうです。本格的な打ち上げ花火が登場したのは明治時代と言われています。海外から多くの薬品が輸入され、新たな色彩が加わり、日本の花火は大きく変化しました。日本の花火は、世界の中でも特別きれいだと言われていますが、海外と何が違うのでしょうか。

日本の花火は、花火玉が球の形をしていて、上空で丸く開くのが特徴です。最近では、海外でも球の形をした花火玉が作られるようになったそうですが、多くは花火玉が円筒形で、柳の枝のように開くものが主流のようです。丸く花のように開く打ち上げ花火は、日本ならではのものだったんですね。ただ、近年は丸く開くことにはこだわらない花火師達の新しい発想により、素敵なお花火が生まれています。菊や牡丹の形など伝統的な日本の花火から、ひまわり・コスモスといった新しい花々や、動物、スター、UFO、ハートなど様々な形を持つようになってきました。

また、打上げ方法も直接火を点ける方式から、遠隔操作による電気点火に移りつつあるそうです。さらに、点火のタイミングを予めプログラミングし、コンピュータでコントロールする業者も増えてきました。音楽に合わせて、精密に花火が打ち上がる演目を見かけるようになったのはこのためですね。日本の花火は、テーマに沿って打ち上げていて、ストーリーも楽しめます。今後、どんな新しい花火が登場するのか、とても楽しみです。



## 花火に関する法律

古くは、花火の製造・打上げに規制はなかったと思いますが、現在は、火薬類取締法によって規制されています。この法律の規制を受ける火薬類に、火工品の一つである煙火（いわゆる花火）が定義されています。火薬類取締法は、「火薬類の製造、販売、貯蔵、運搬、消費その他の取り扱いを規制することにより、火薬類による災害を防止し、公共の安全を確保することを目的とする。」としており、花火を製造、販売、消費（打上げ）等するには許可が必要になります。

例えば、花火大会を開催するためには、多くの打上げ花火が必要になりますが、火薬類を爆発させ、又は燃焼させる（花火を打ち上げる）には火薬類取締法第25条に基づき都道府県知事から許可を受けなければなりません。ただし、規模によっては、許可を得なくても消費できる場合があります。詳しくは、火薬類取締法及び火薬類取締法施行規則をご確認ください。



## 終わりに・・・

海外では、何かのイベントがないと打ち上げることが少ない花火ですが、日本で、は花火がメインでイベントが開催されます。毎年7、8月頃に各地で開催される花火大会、これほど花火が好きな国は他にないのではないのでしょうか。2020年は、ほとんどの花火大会が中止になりましたが、やはり夏にはビールを飲みながら打上げ花火を観たいですね。新型コロナウイルスが終息し、例年どおり、大勢の人が集まる花火大会が開催されるのを願うばかりです。